

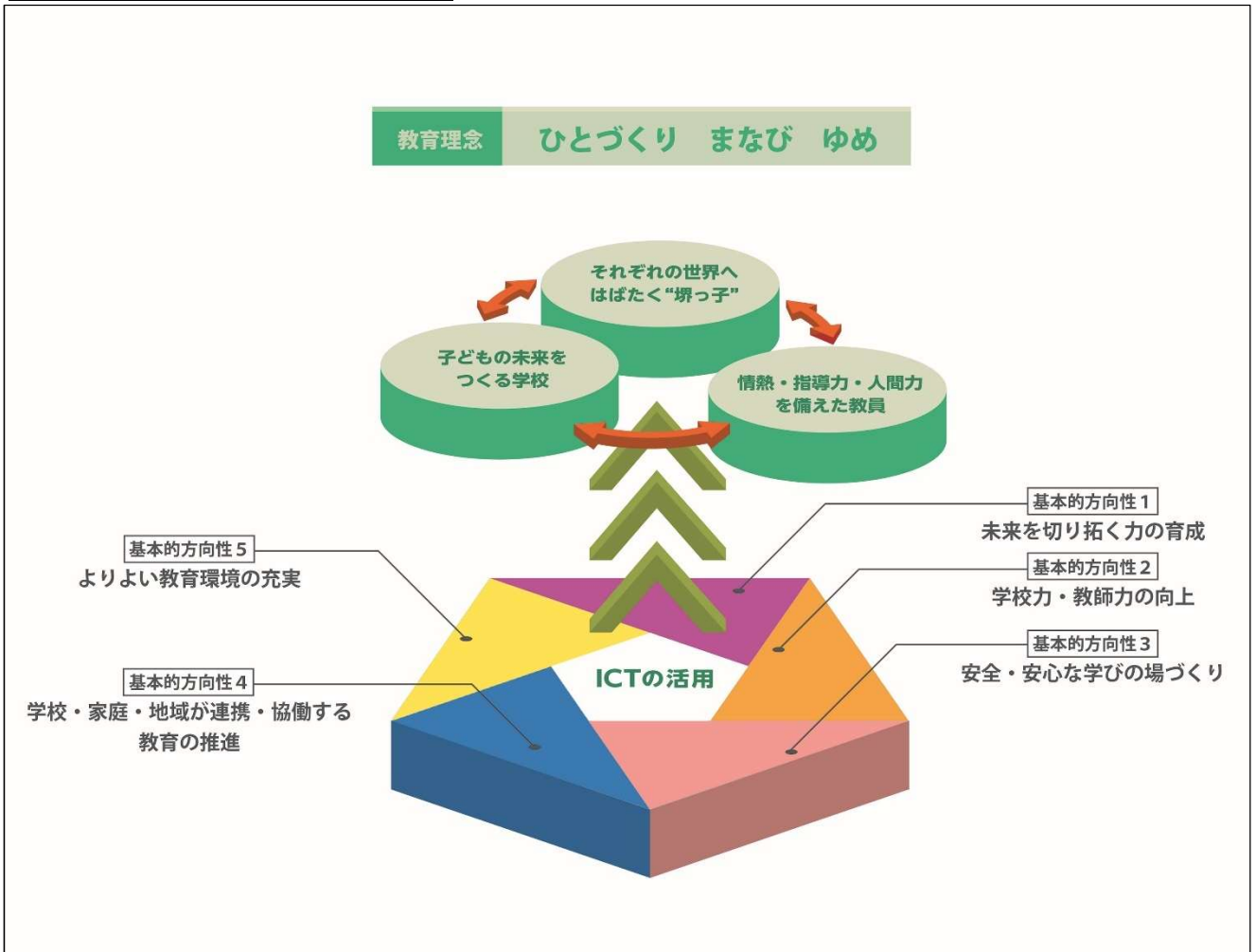
## 5. 施策体系

### (1) 計画の全体図

次の5つの基本的方向性のもと、16の基本施策を展開します。



(2) 計画の推進に係るイメージ図



### (3) 計画の見方

基本的方向性ごとのねらいを示したうえで、基本施策ごとに、「現状と課題」、「施策の方向性」、「成果指標」を明らかにし、計画期間中に取り組む「主な取組」について記載しています。

第1章

第2章

第3章

第4章

参考資料

**基本的方向性 1 未来を切り拓く力の育成**

これからの社会は、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により社会構造や雇用環境が大きく急速に変化し、予測が困難な時代を迎えることになります。

超スマート社会の担い手として、文脈や協働を必要とする新たな価値を生み出すための思考できる力、対応する力、一人ひとりが持続可能な社会を切り拓く力」とは、

**基本的方向性**  
「ひとづくり・まなび・ゆめ」の教育理念のもと、堺市のめざす教育像を実現するために取り組む方向性、そのねらいを示しています。

**基本施策**  
基本的方向性を実現するために取り組む施策を示しています。また、各基本施策に関連するSDGsの目標を示しています。

**基本施策 2 グローバルに活躍できる力の育成**

**現状と課題**

- 外国にルーツのある方との交流などを通じて、様々な文化や習慣、多様な考え方や生き方にふれる機会を設けていますが、相互理解を更に深めるため、国際理解教育の推進が必要です。
- 外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面が必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっています。
- 学習指導要領において新たに小学校中学年に外国語活動、小学校高学年に外国語科が導入され、外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機づけを高めたいと、段階的に学習を進め、中学校への接続を図ることが重視されています。
- 英語教育実施状況調査では、中学校においてCEFR A1レベル（英検3級）相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合は年々上昇しているものの、国が第3期教育振興基本計画において設定している測定指標（50%）には到達していません。

**【関連データ】**

外国語活動/英語の勉強は大切だと思いますか

学年	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小6	91.6	91.7	92.1	92.6	92.4	90.7
中2	81.6	82.7	83.8	84.1	85.6	85.9

英語の授業で自分の考えを書いたり、スピーチをしたりすることがある

学年	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中1	61.2	66.9	70.0	75.7	76.7	79.2
中2	57.1	67.1	72.0	71.0	74.4	78.0

資料：堺市「子どもがのびる」学びの診断

第1章

第2章

第3章

第4章

参考資料

基本的方向性1

基本施策2

**現状と課題**  
基本施策に関連する国や堺市の現状と課題を示しています。

第1章

第2章

第3章

第4章

参考資料

計画の内容

施策体系

22

**施策の方向性**

「現状と課題」をふまえて、  
施策の取り組むべき方向  
性を示しています。

**成果指標**

取組を行う際に目標とする指標で  
す。施策の方向性に対する意識を  
もつことを重視したうえで取組を推進  
するため、指標を設定しています。

**■施策の方向性**

- ▶ グローバル化の一層の進展が予想されるなか、社会的な課題や地球規模の課題を自ら発見し、解決できる能力、また、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していけるよう、国内外の場において、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図りながら他者と交流し、共生していくために必要な力を育成することが求められています。
- ▶ 本市では、我が国や郷土の伝統や文化を深く理解することや、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことをめざし国際理解教育を進めます。そして、外国語によるコミュニケーションが活発に行えるよう、様々な交流を活用しながら外国語教育の充実を図ることで、語学力やコミュニケーション能力、主体性・積極性等を身につけたグローバルに活躍できる人材の育成をめざします。また、「子ども堺学」等を通じて、問題を発見し解決する能力の育成や、地域への誇り・愛着、貢献意識を高めます。

**■成果指標**

指 標	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
中学卒業段階でCEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (英語教育実施状況調査)	中学校 46.2%	中学校 50%
「英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)」と答えた児童の割合 (堺市教育委員会調べ)	小6 78.0%	小6 80%

**■主な取組****◇グローバル化に対応した人材の育成**

言語や文化が異なる人々と主体的に協働していけるよう、関係部局と連携し、姉妹・友好都市や堺とゆかりの深い各国との交流などを活用し、国際関係や異文化を理解するとともに、相互理解に基づく多文化共生という視点を持ち、国際社会の一員として主体的に行動できる資質・能力を育みます。また、近年増加傾向にある外国人児童生徒に対しては、日本語指導体制を整え、日本語教育を行っていくとともに、すべての子どもたちの教育の機会を確保します。

**◇英語教育の充実**

小学3・4年生における外国語活動、小学5・6年生における外国語科及び中学校英語の授業において、ICT等を活用し、英語を使う機会の充実を図ります。また、中学校では、英語の授業は英語で行うことを基本とし、英語教育の充実を図ります。

**主な取組**

施策の方向性の実現に向け、  
取り組む具体的な取組  
を示しています。

※本プランに基づき、別に  
策定する実施プログラムに  
て、毎年、個々の事業の  
進捗状況を確認していきま  
す。